

ミズヒマワリ

分類: 双子葉植物、合弁花類、キク科、ミズヒマワリ属

学名: *Gymnocoronis spilanthoides*

英名: Senegal tea plant, Giant green hygro

和名: ミズヒマワリ

別名・流通名: ミズヒマワリ属の学名のギムノコロニスで流通している。

原産地と分布: 中央・南アメリカ原産、オーストラリア、ニュージーランド、台湾に分布する。

未判定外来生物: なし。

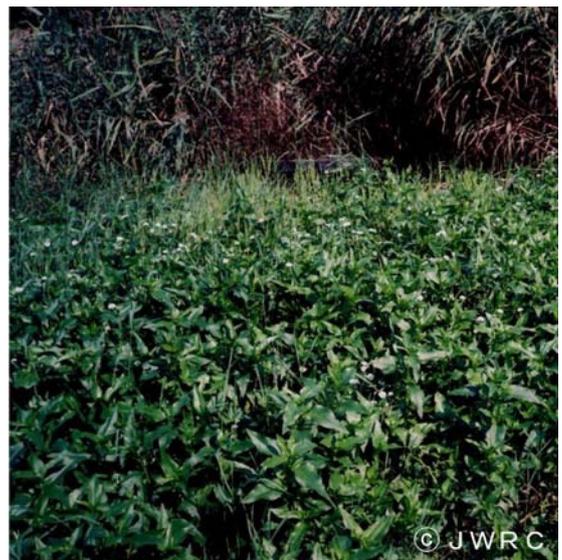
種類名証明書添付生物: ミズヒマワリ属全種(5種)

形態的特徴:

花: 分枝した茎の頂に集散花序をなす。頭花は球形で、径6-10mm、100-150の白色小花が密集する。管状花冠は長さ3.5mm、花柱は長さ1cmで2又に深く分かれ、柱頭は棍棒状。総苞片は長さ3-4mm、背面に細毛があり、25-35枚が2列になり、別々又は基部でやや合着する。花柄や花序の柄には密に細毛がある。

茎: 高さ0.5~2m以上、節間は長い。

葉: 名前の由来であるヒマワリに似ている。対生する。下部の葉の葉柄は長さ1.3-3.5cm。葉身は披針形~卵形、鋭尖頭、基部は広くさび形~やや円形。沈水状態では長さ24cmになり、鋸歯は目立たないが、水上葉は縁に低い鋸歯がある。両面とも無毛。



特記事項: 河川等の水中や水際に生育する。水深が深いと長さ1m以上になり、直立できなくなると水面に倒伏して浮かぶ。開花期は9~10月(6~11月との報告もある)。栄養繁殖が極めて旺盛で、ちぎれた茎は節から根を出し、生長が早く短期間で大きなコロニーを形成する。ミズヒマワリ属は日本に自生種はない。本種以外の野生化は報告されていない。